

蓼科山山行報告

【山行日】2020年9月6日(日) 雨後曇り
【集 合】岩舟支所P AM 5:00
【費 用】マイカー2台 : 3,600円
【メンバー】CL:鈴木、SL大西、青柳、安西、
石澤、島田、関、福島、藤原、松館、渡辺
【コースタイム】岩舟支所 P5:00 = 大河原峠
P7:20/7:40 ~ 赤谷の分岐 9:10 ~ 将軍平 9:25/9:35
~ 蓼科山 10:10/10:30 ~ 将軍平 11:20/11:50 ~
大河原峠 13:10/13:25 = 道の駅「ヘルシーテラス南
佐久」14:10/14:30 = 岩舟支所 P16:05



月例山行計画では甲斐駒ヶ岳&仙丈ヶ岳の予定だったが、南アルプスの山小屋はコロナの影響で休業の為、代替山行として蓼科山を計画した。北関東道から上信越道を進み、小諸JCTから中部横断自動車道の佐久南ICで降り蓼科スカイラインを進む。蓼科スカイラインは去年の台風19号で崩壊し、通行止めになっていたが今年6月に大河原峠まで通行できるようになった。大河原峠から白樺高原まではまだ通行止めになっており、大河原峠に行くには佐久市側からしか行けないので注意が必要。雨の中を走り大河原峠の駐車場に着くと、すでに10数台の車が止まっていた。駐車場は広くトイレが設置され、小さなカフェや大河原ヒュッテが建っている。まだ小雨が降っておりレインウエアーを着て、トイレとストレッチを済ませて出発する。登山道はヒュッテ脇を通過して平坦な笹の道を進み、やがて樹林帯の石がゴロゴロした登山道を登る。30分くらい歩くと雨は止み、衣服調整と水分補給しレインウエアーを脱ぐ。鬱蒼としたシラビソの樹林帯の急登が続き、傾斜が緩やかになると明るくなり縞枯の林の中を歩くようになる。平坦な湿地帯の木道を歩き、佐久市最高点の標識を過ぎると赤谷の分岐に出る。分岐から10分程歩くと蓼科山荘が建つ将軍平に着く。

ここは七合目登山口からの道が合わさる十字路になっており、今までの静けさが嘘のように大勢の登山者で賑わっていた。小休止し、山荘でトイレを済ませたら蓼科山への急登に取付く。ダケカンバの樹林帯を抜けると岩場の急登が始まり、大きな段差の岩に悪戦苦闘する。ようやく登り切った所が蓼科山頂ヒュッテで、ここから大きな岩がゴロゴロした歩きにくい道を進むと蓼科山頂に着く。あいにくガスが掛かり眺望は得られなかったが、とりあえず記念写真を撮り、広い山頂部の中央にある



蓼科神社へ向かう。

蓼科神社は鳥居と社が建ち、すぐ先には立派な台座の上に方向指示盤が置かれている。晴れていれば文字通り360度の大展望が広がり、方向指示盤で山座同定を楽しむことができる。



巻き卵や漬物、ちくわなどが並び、お腹がいっぱいになる。天気も予報ほど良くないので、天祥寺原への周遊は断念し往路を戻ることにした。ここから登山口まで下るだけと解り、皆さん気持ちが楽になって会話が弾む。湿原の木道では青空が広がり、南側の展望は開けたが蓼科山頂は雲で見えなかった。下りは快調に歩き、アツと言う間に大河原峠の駐車場に着いた。靴を履き替えトイレを済ませたら帰路につく。途中、トマト農家の直売所に寄り、トマトやトウモロコシをゲット。高速道入口の道の駅「ヘルシーテラス佐久南」にも寄って、野菜やお土産を買い予定よりも大幅に早く岩舟支所に帰着した。

晴れるのを期待して待つが、雨が落ちて来たので下山開始する。下山は往路を將軍平まで下るが、岩の下りは予想以上に時間が掛かった。濡れた岩は滑りやすく、下から登るパーティが多く待ち時間が多くなる。將軍平で予定より20分遅れており、天祥寺原への下りも岩がゴロゴロした沢の中を下るので、予定を変更してここでランチタイムとした。ベンチの脇でお湯を沸かし、各自持参したカップ麺やスープをいただく。出汁

